

2015 年 10 月 30 日

報道機関各位

調査レポート

2015 年 7～9 月期のGDP(1 次速報) 予測

11 月 16 日に内閣府から公表される予定の 2015 年 7～9 月期の実質 GDP 成長率は、前期比 - 0.2% (年率換算 - 0.7%)と 2 四半期連続でマイナス成長となったと見込まれる。

個人消費は、雇用・所得情勢が緩やかに持ち直していることに加え、夏場の猛暑効果などの天候要因の影響により、前期比でプラスに転じたと予想される。設備投資は、企業の慎重な姿勢を反映して、小幅ながら 2 四半期連続で前期比マイナスとなる見込みである。全体の押し下げに強く影響したのが在庫寄与度であり、在庫調整の進展を受けて 3 四半期ぶりにマイナスとなり、マイナス幅も大きめであったと考えられる。外需寄与度は、輸出の伸びが小幅であり、前期横ばいにとどまったと予想される。

名目 GDP は前期比 - 0.3% (年率換算 - 1.3%)、GDP デフレーターは前年同期比 + 1.7% と予想する。

	2014 年			2015 年		
	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9
実質 GDP	- 2.0	- 0.3	0.3	1.1	- 0.3	- 0.2
同 (年 率)	- 7.6	- 1.1	1.3	4.5	- 1.2	- 0.7
同 (前年同期比)	- 0.4	- 1.4	- 1.0	- 0.8	0.8	0.9
内需寄与度 (*)	- 2.8	- 0.4	0.0	1.2	- 0.0	- 0.2
個人消費	- 5.0	0.3	0.3	0.4	- 0.7	0.4
住宅投資	- 10.9	- 6.3	- 0.6	1.7	1.9	1.2
設備投資	- 4.2	- 0.2	0.1	2.6	- 0.9	- 0.3
民間在庫 (*)	1.2	- 0.5	- 0.2	0.5	0.3	- 0.4
政府最終消費	0.1	0.3	0.3	0.3	0.5	0.2
公共投資	0.4	1.6	0.2	- 1.4	2.1	- 0.2
外需寄与度 (*)	0.9	0.1	0.3	- 0.1	- 0.3	- 0.0
輸出	0.6	1.8	2.8	1.6	- 4.4	1.7
輸入	- 3.9	0.9	0.8	1.8	- 2.6	1.5
名目 GDP	0.2	- 0.6	0.8	2.1	0.1	- 0.3
同 (年 率)	0.7	- 2.4	3.2	8.9	0.2	- 1.3
同 (前年同期比)	1.8	0.6	1.4	2.6	2.3	2.6
GDP デフレーター (前年同期比)	2.2	2.1	2.4	3.5	1.5	1.7

(注) 内需寄与度、民間在庫、外需寄与度は実質 GDP に対する寄与度

(出所) 内閣府「四半期別 GDP 速報」

三菱UFJリサーチ & コンサルティング株式会社

調査部 主任研究員 小林 真一郎

〒105-8501 東京都港区虎ノ門 5-11-2

TEL: 03-6733-1070

需要項目別の動向は以下の通りである。

実質個人消費（前期比 + 0.4%）

個人消費は、雇用・所得情勢が緩やかに持ち直していることに加え、夏場の猛暑効果でエアコンや夏物衣料が順調に増加したこと、その後の気温の一時的な低下により秋物衣料への支出が伸びたことなどから、前期比でプラスに転じたと予想される。

実質住宅投資（前期比 + 1.2%）

先行する住宅着工件数が持ち直していることから、住宅投資は3四半期連続で前期比プラスとなったと見込まれる。

実質設備投資（前期比 - 0.3%）

企業業績の改善が続き、手元資金は潤沢な状態にあるが、企業は国内での新規設備投資の積み増しには慎重な姿勢を維持しており、設備投資は小幅ながら2四半期連続で減少したと予想される。

実質在庫投資（前期比寄与度 - 0.4%）

在庫は調整局面にあり、在庫投資の実質GDP成長率に対する寄与度は3四半期ぶりにマイナスに転じたと考えられる。これまでプラス寄与が続いたことへの反動もあり、マイナス幅はやや大きめとなる見込みである。

実質政府最終消費支出（前期比 + 0.2%）

医療費などを中心に政府サービスに対する需要が増加基調にあることから、政府最終消費支出は引き続き前期比で増加したと思われる。

実質公共投資（前期比 - 0.2%）

2014年度補正予算の執行などから、4～6月期に公共投資は前期比で増加したが、その効果が剥落するため、小幅ながら減少に転じた可能性がある。

外需（前期比実質寄与度 - 0.0%、実質輸出：前期比 + 1.7%、実質輸入：同 + 1.5%）

好調なインバウンド需要を反映してサービス輸出は堅調に増加したものの、海外景気の減速を受けて輸出数量が前期比で落ち込んでいる。このため、実質輸出は前期比では緩やかな増加にとどまったと予想され、外需の実質GDP成長率に対する寄与度は - 0.0%となったとみられる。

GDPデフレーター（前年同期比 + 1.7%）

原油などの資源価格の下落を受けて輸入物価の落ち込み幅が拡大しており、GDPデフレーターの前年比伸び率はやや拡大したと予想される（季節調整値では前期比 - 0.2%）。

- ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要です。当社までご連絡下さい。